

まもり・つなげる

—こま武蔵台の魅力を受け継ぐ&人とのつながりが生まれる—



目次

01. 地域分析

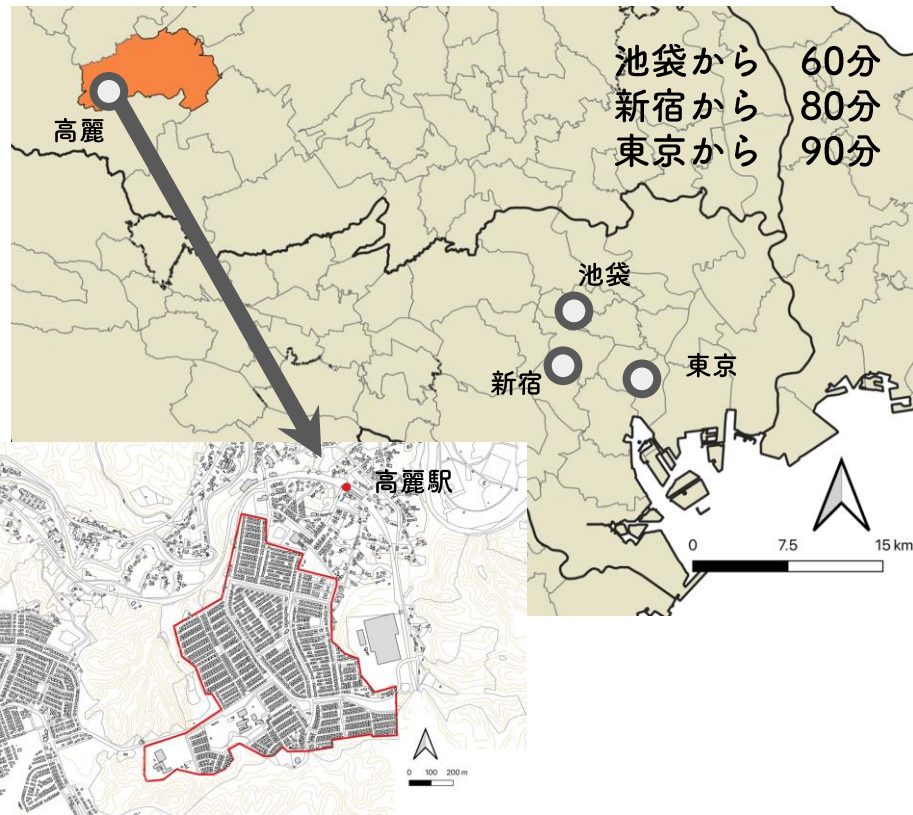
02. 各分野の考察 余剰校舎活用・地域プロモーション・モビリティ・まとめ

目次

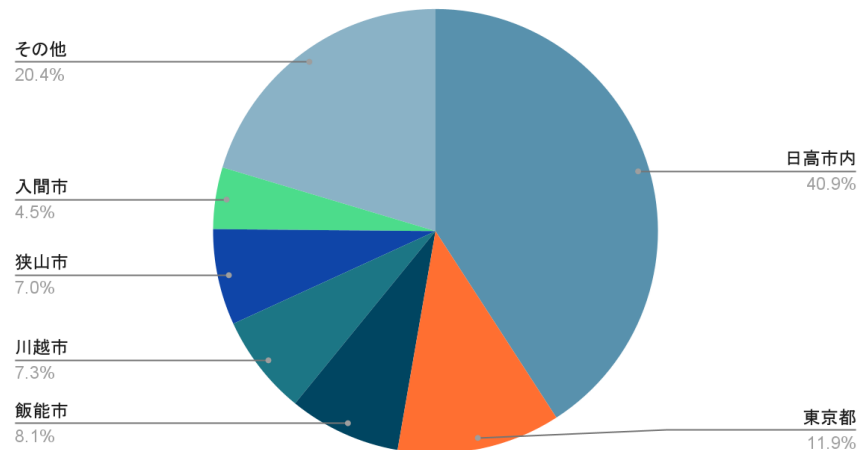
01. 地域分析

02. 各分野の考察 余剰校舎活用・地域プロモーション・モビリティ・まとめ

こま武蔵台の位置



就業者の通勤先割合



- 4割の人が日高市内で働いている
- 都内に通勤する人は約12%
- 西武線でアクセスしやすい県内他市町村への通勤者も多い

01. 地域分析

こま武蔵台の歴史

1977年	こま武蔵台宅地供給の開始
1980年	日高市立武蔵台小学校開校
1989年	日高市立武蔵台中学校開校
2008年	東急ストアの撤退
2013年	東急ストア跡地に朝採れファーム高麗郷オープン
2018年	タウンハウスのリノベーション実施
2021年	グリーンスローモビリティ実証実験の実施



リノベーション後の外観



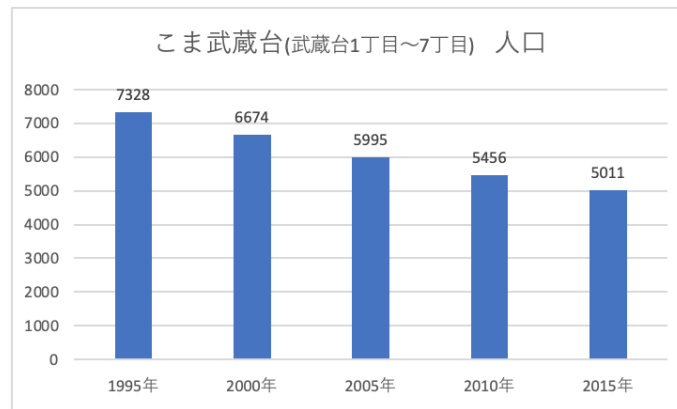
出発式で「グリスロ」に乗る住民たち

こま武蔵台で行われたグリスロ実証実験の様子



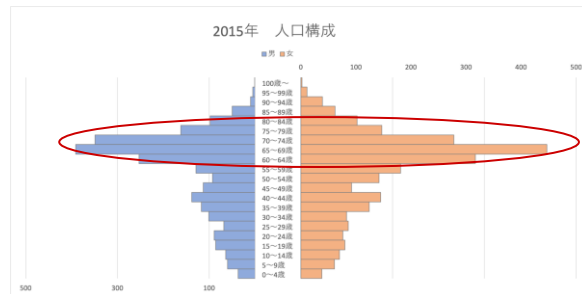
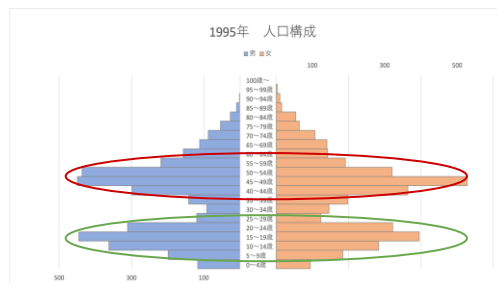
人口分析：構成と動態

- 人口は年々減少傾向にあり、1995~2015年の20年間で2000人以上減少している。
- 人口構成で見ると、急速な高齢化と、子供の減少がみてとれる。
→団地分譲時には40-50代、10-20代の2つの山があったが、現在親世代のみ(60-70代)が残り、山が1つになっている。



	平成31年	令和2年	令和3年
日高市	31.6%	32.4%	33.1%
こま武蔵台	49.6%	51.2%	51.6%

高齢化率は2年間で2%上昇。
日高市の平均よりも20%弱多
くなっていて急速な高齢化が
伺える。



人口分析：町丁目別と世帯構成

入居開始年と、人口増減を町丁目別に見ると以下のようになり、開発時期の早いエリアほど減少幅が大きいことがわかる。

1977年：1丁目-379人・2丁目-329人

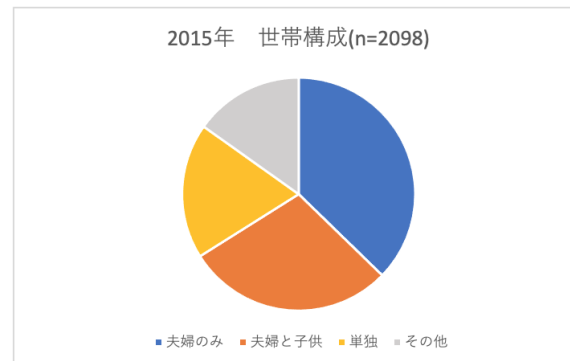
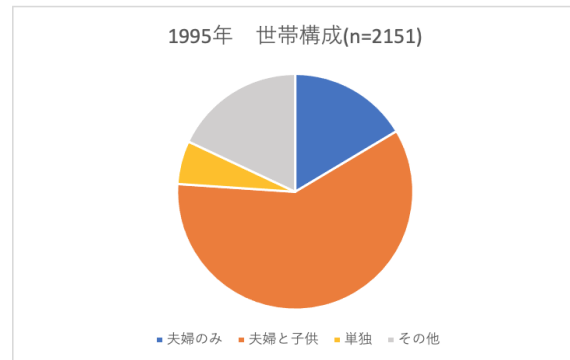
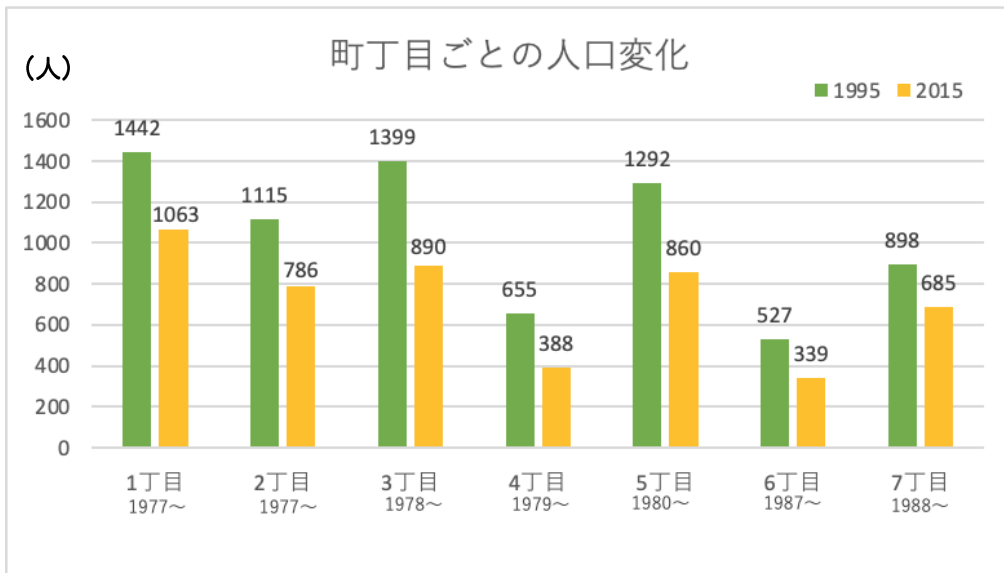
1978年：3丁目-509人

1979年：4丁目-267人

1980年：5丁目-432人

1987年：6丁目-188人

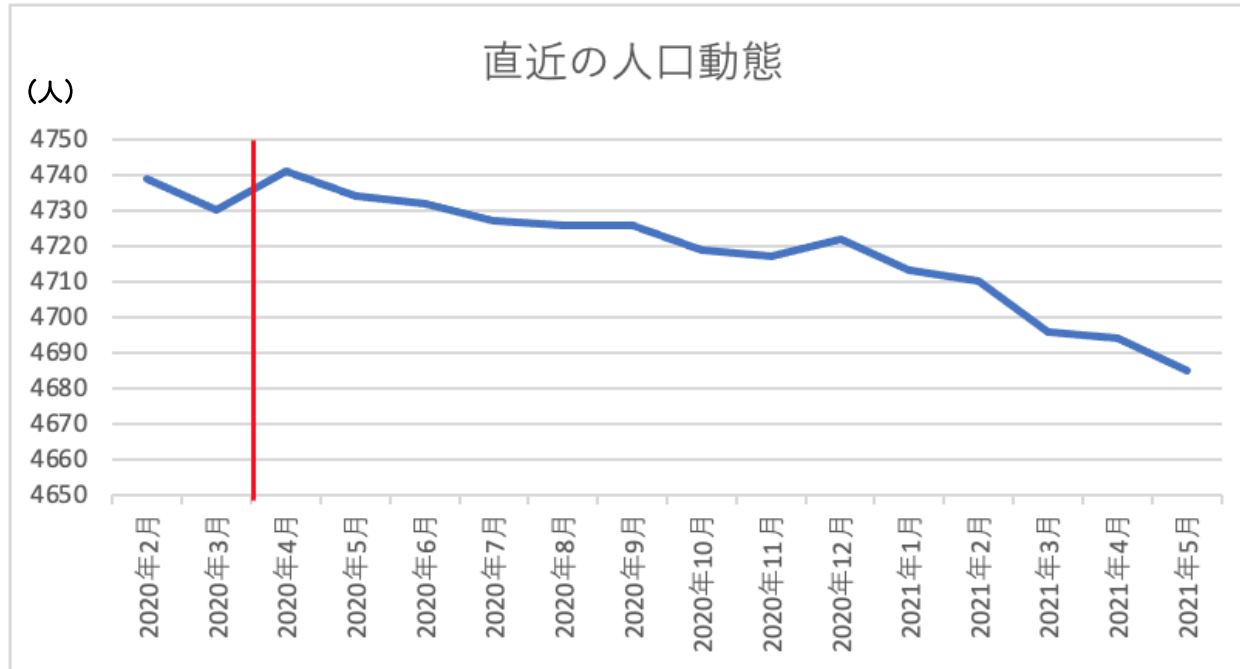
1988年：7丁目-213人



子供のいる世帯の割合が減少し、単独世帯の割合が上昇している。

— 人口分析：COVID-19の影響

直近の人口としては概ね減少傾向にあるが、第一波・初の緊急事態宣言の際の、人口の増加幅が他の時期よりも大きい。



行われている活動

■埼玉県日高市「こま武蔵台」の取り組み【地域住民・企業・大学による連携】



◇住民、学、産が連携してまちづくりに取り組んでいる

多様な取り組み

【センターでの活動】

- ・ふれあいマルシェ、ふれあいサロン
：自治会主催
- ・balloonによるプロジェクト
 - ①こま屋台（今は行われていない：発展的解消）
：子どもたちが考え、作った屋台をマルシェに出店する。
 - ②コマキチ
：センター内の空き店舗でおやつ作りやクラフト体験を提供。放課後の居場所作り、子育て環境の構築が目的。
- ・コワーキングスペースKOMA
：東急不動産R&Dセンターによる企画・運営

【地域全体】

- ・グリスロ
：国総研+住民（自治会、福祉ネット、げんきネットなど）による実証実験
- ・自治会移送サービス、福祉ネットおたすけ隊
：生活サポートが必要な住民向けのサービス

空き家調査 概要

実施日：2021年6月27日、29日の2日間

調査員：東大の学生、教員、東急関係者、調査に協力いただいた現地の方々

調査項目：

- ①門・門扉・施錠設備についての破損状況
- ②窓の破損の有無
- ③敷地入り口～建物玄関までの通路が進入可能か
- ④ゴミ・放置物の有無・散乱しているか
- ⑤庭などの雑草の状況
- ⑥軒先・軒裏の破損状況
- ⑦売り家・貸家などの看板の有無
- ⑧近隣住民・管理人情報の有無、その内容
- ⑨日高市調査に基づく利用可能度合いのランク
- ⑩その他、郵便受けや屋根、フェンスや塀、外壁、雨戸やシャッターなどの状況

これらの項目や生活感の有無から空き家かどうかの判定を行った。

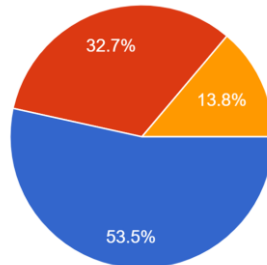


空き家調査結果詳細

* 空き家の分布とそのランク (地区の空き家率7.28%)

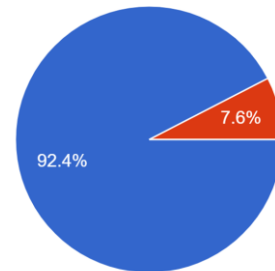
プライバシーの観点から
地図を非表示にしています
m(_ _)m

庭などの雑草



- 異常なし
- やや繁茂
- 著しく繁茂

ゴミ・放置物



- 異常なし
- 散乱

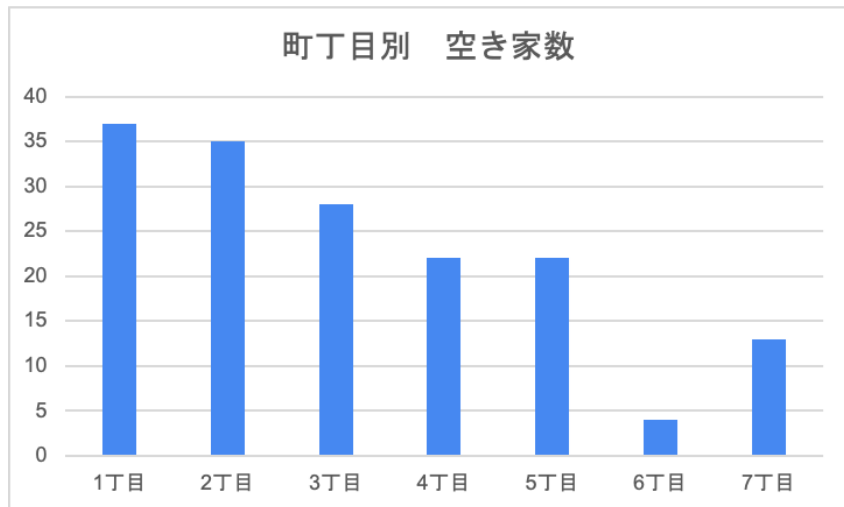
空き家の状況について、9つの項目から調査した。

- 門や窓、通路や軒先の破損が見られる空き家は5%以内にとどまる
- 雑草の茂りや放置物が問題となっている空き家が多い(→比較的再整備に負担少ない)

これらの状況から、空き家ランクとしてはリノベなどにより再利用できる青ランクが多かった。 11

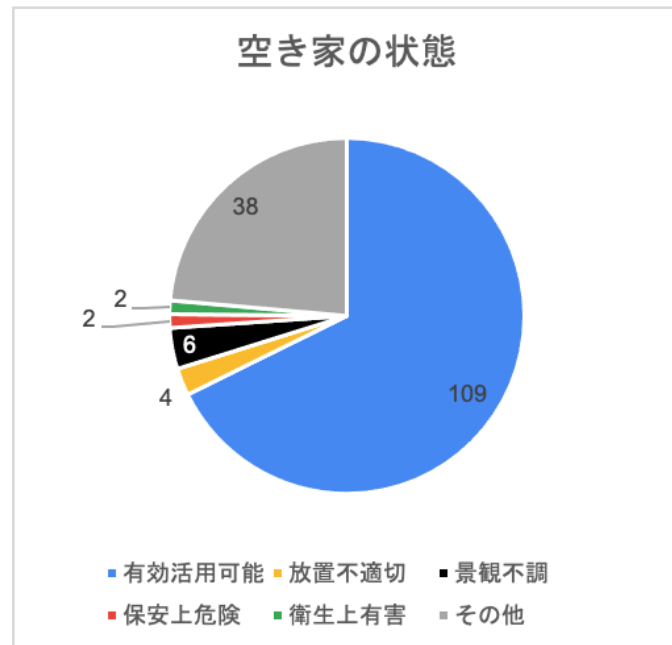
空き家調査結果詳細

* 町丁目別の空き家数（計161区画/2122区画中）
 入居開始が早かった1~5丁目と、1980年代後半に入居が開始された6,7丁目では空き家数に顕著な差が見られる。



* 空き家の状態

有効活用が可能な空き家が半数以上を占めているが、一部問題になる空き家も存在している。



空き家調査結果詳細

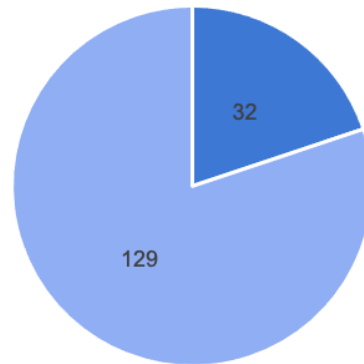
* 空き家の種類

近隣住民情報等を参考にすると、見た目は空き家でも所有者がいる場合が多かった(空き家のうちの19.8%)。

相続して子供が管理していたり、住民が施設に入居しており定期的に管理にだけ戻ってきていたり引越したが住宅を持ったままなどのケースが多かった。

管理の頻度も「週末」、「数ヶ月に一回」など様々で、中には相続した後20年ほど放置され、その間近隣の住民が手入れを手伝っているケースもあった。

空き家のうち所有者がいる割合(戸)



■所有者あり ■なし

住民ヒアリング

* 住民ヒアリング

- ・ 空き家調査中に住民の方にヒアリングを実施（2021.6.27・2021.6.29）
- ・ 「まちの魅力度評価方法」に基づき、ハッシュタグを用いて分析



空き家調査・ヒアリングの様子

賑わいがある

#地域活動(高齢者)が活発
#地域活動(若者)が活発
#子どもが元気
#多世代・同世代の交流が活発

きれいである

#景観がよい
#まちなみがよい

便利である

#買物しやすい
#主要施設が近い
#地域外アクセス
#地域内アクセス

安全・安心である

#犯罪が少ない
#災害に強い

憩い・潤いがある

#みどりが豊か
#静かなまち

住民ヒアリング

* 住民ヒアリングの結果①

大分類	中分類	地域の強み(プラス面)	地域の弱み(マイナス面)
賑わいがある	#地域活動(高齢者)が活発	<ul style="list-style-type: none"> ・近くの山にハイキングに行く ・個人で所有する菜園が交流の場に 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会加入率が落ちている ・コロナの影響で参加率低下 ・外からの人を受け入れにくい土壌がある(コミュニティ強固) →メンバー・利用者の固定化
	#地域活動(若者)が活発	<ul style="list-style-type: none"> ・夏祭り→コロナで中止 	<ul style="list-style-type: none"> ・若者向けイベントが少ない
	#子どもが元気	<ul style="list-style-type: none"> ・センターで行われるイベントに多くの子どもが参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの都心部流出 ・子どもの居場所が減少
	#多世代・同世代の交流が活発	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントの数自体は多め(ブルーベリー栽培・餅つき大会) ・おもしろい人が地域にいる 	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の人との交流が減少 ・子育てに協力的でない人の増加 ・少子高齢化による交流機会の減少
きれいである	#景観がよい	<ul style="list-style-type: none"> ・地区計画で整備されている ・見晴らしがよい 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化により景観維持活動が困難
	#まちなみがよい	<ul style="list-style-type: none"> ・桜通りやあじさいがきれい ・ベンチが備えてあり憩いの場になっている but. 道路法違反 ・個人宅のイルミネーションや庭がきれい 	<ul style="list-style-type: none"> ・タウンハウスの共用部が鬱蒼としている ・空き家が放置されている所があり、まちなみに影響(所有者はいるが現地に住んでいない)

住民ヒアリング

* 住民ヒアリングの結果②

大分類	中分類	地域の強み(プラス面)	地域の弱み(マイナス面)
便利である	#買物しやすい	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣スーパーまで送迎あり（利便性がよい） ・センターにもスーパーあり but. 小規模・品薄 	<ul style="list-style-type: none"> ・センターにあるスーパーを利用せず、遠くまで車で行く人も多い →生協で済ませてしまう人も
	#主要施設が近い	<ul style="list-style-type: none"> ・ローソンが営業開始した ・必要な施設は一通りある →使う人と使わない人がいる 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区センターに行く人の減少 ・地区協定により新しい施設の建設が許可されにくい
	#地域外アクセスがよい	<ul style="list-style-type: none"> ・秩父と都心の間の中間拠点（半ば郊外、半ば都心） 	<ul style="list-style-type: none"> ・路線バスが減便する予定 ・都心部まで片道1時間かかる
	#地域内アクセスがよい	<ul style="list-style-type: none"> ・グリスロの運行開始（社会実験） →地域の大切な移動手段に 	<ul style="list-style-type: none"> ・坂や階段が多い→活動意欲の低下

住民ヒアリング

* 住民ヒアリングの結果③

大分類	中分類	地域の強み(プラス面)	地域の弱み(マイナス面)
安全・安心である	#犯罪が少ない	・道幅が広く、見通しがいい	・タウンハウスの共用部が暗い ・車上荒らしが最近発生した
	#災害に強い	・地盤が強く、地震に強い	・中学校付近は土砂災害の危険
憩い・潤いがある	#みどりが豊か	・自然豊かで子育てによい	・タウンハウス共用部の管理 →みどり豊かだが、管理主体が明らかではない（個人？行政？組合？）
	#静かなまち	・日中も人の出入りが少ない	・静かさを求める高齢者と、賑わいを求める若者の間で対立 ・車が増えてきて閑静な住宅地が失われる可能性

・その他（グリスロ関連）

利用するメリットがない（車で何とかなる）

天候・季節の影響（雨に濡れる・冬は寒い）

ルートが悪い（路線バスとの対立・ルート指定型の是非）

運行コストの課題



タウンハウスの共用部

— 住民ヒアリングの結果

* 追加のヒアリング調査で聞かれた内容（一部）

- ・ 世代間交流の少なさ

過去には世代間交流イベントを実施したが、残念ながら「これからも続けたい」とはならなかった。

- ・ 現状、外向きのプロモーションはほとんど行っていない

まずは地区内をなんとかしたい、という思いがある。

- ・ 住民間で考え方に違いがある

新しい人が入ってくること・まちの今後の方針に対して、住民間で方向性の違いもある。

目次

01. 地域分析

02. 各分野の考察 余剰校舎活用・地域プロモーション・モビリティ・まとめ

目次

01. 地域分析

02. 各分野の考察 余剰校舎活用・地域プロモーション・モビリティ・まとめ

02. 各分野の考察

余剰校舎活用：日高市立 武蔵台中学校の概要

●1989年開校

●生徒数

2020年は1学年40+人で合計133人
山を挟んだ西隣の横手団地も通学区域
生徒数は減少傾向、10年前と比べると
20人以上減っている
→同じく児童数が少ない武蔵台小学校
との併合が予定されている

●立地：

団地の一番端（駅から一番遠い）
&一番標高の高いところにある
→住民が徒歩で気軽に行くのは困
難

●外観・施設

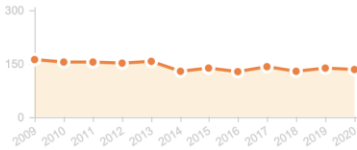
- ・校舎は4階建て
- ・テニスコート4面、
グラウンド、体育館、
プール
- ※プールは引き続き中学生
が利用する可能性あり

●土砂の危険

- ・すぐそばに山が迫っていて
土砂災害のリスクがある
- 入り口の場所や、宿泊場所の
工夫が必要

133

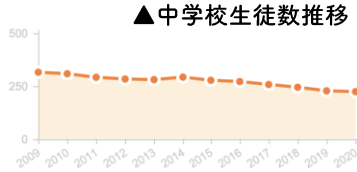
学校全体
生徒数



▲中学校生徒数推移

223

学校全体
児童数



▲小学校児童数推移



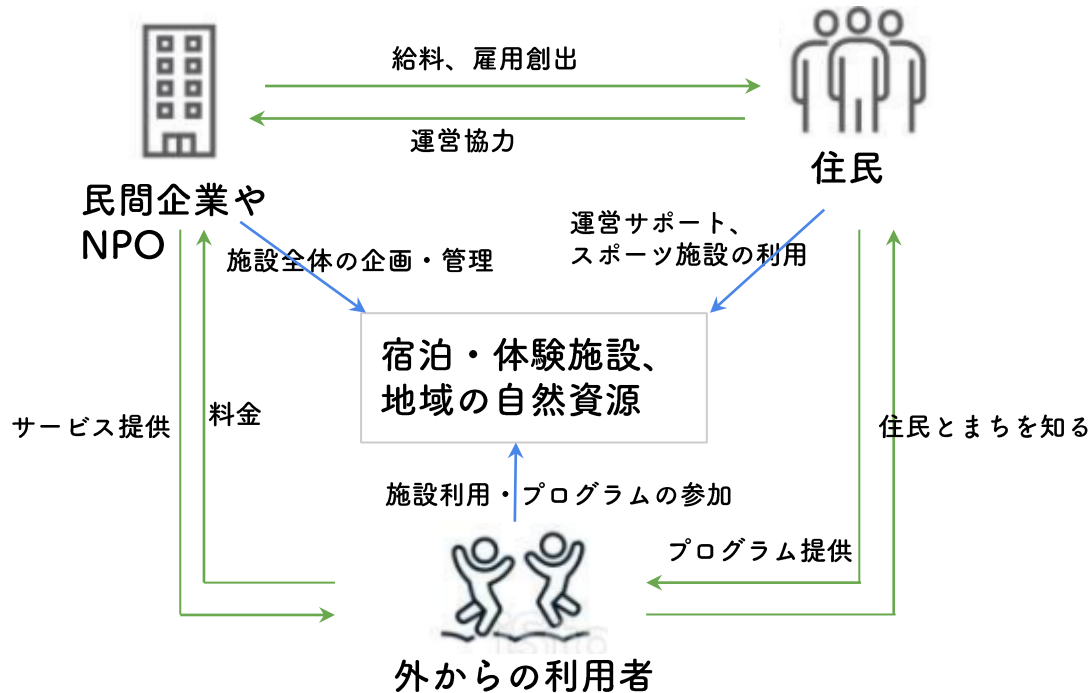
○	急傾斜地崩壊危険箇所
■	土砂災害特別警戒区域
■	土砂災害警戒区域

余剰校舎活用

全体方針：

住民が運営に関わりながら、外の人に開かれた施設

ステークホルダー



住民の関わり方について

- ・運営に参加し、プログラムの内容も提案できる。

- ・住民同士のサークル活動の実践の場のような形とし、コミュニティの形成も促進する。

- ・施設やプログラムの運営を通じて雇用を生み、新しい人を取り込む

外からの利用者について

- ・施設に遊びに来た人が、地域の良さを知ったり移住に興味を持ったりする仕掛けをつくる

02. 各分野の考察

— 余剰校舎活用 案1：グランピング

ターゲット：外から来る若者・ファミリー

運営主体：民間主導（コンセプトに合う企業を公募）

コンセプト：おしゃれなグランピングスポット

体験できること：

- ・グランピング
- ・ブルーベリー狩り
- ・教室がコンセプトのホテル
- ・ハーバリウム、リース、アロマキャンドル作り
- ・フォトツアー



「高滝湖グランピングリゾート」(廃校活用事例)



02. 各分野の考察

— 余剰校舎活用 案2：アウトドア施設

ターゲット：ファミリー層

運営主体：公共・NPO

コンセプト：周辺のロッククライミングなどのアウトドアアクティビティに訪れたファミリーなどのための宿泊施設

体験できること：

オートキャンプ（車乗り入れ可）

BBQ、キャンプファイヤー

アウトドアに関する講習

アウトドア用品・キャンプ用品の貸し出し



日和田山はフリークライミング発祥の地とされる（諸説あり？）



— 余剰校舎活用 案3：環境自然体験施設

コンセプト：環境配慮 ♻️🌍

自然豊か、廃校活用、グリスロなどと親和性あり

ターゲット：環境や自然に関心のある人、
小中学生（宿泊学習など）、ファミリー

運営主体：公共、民間

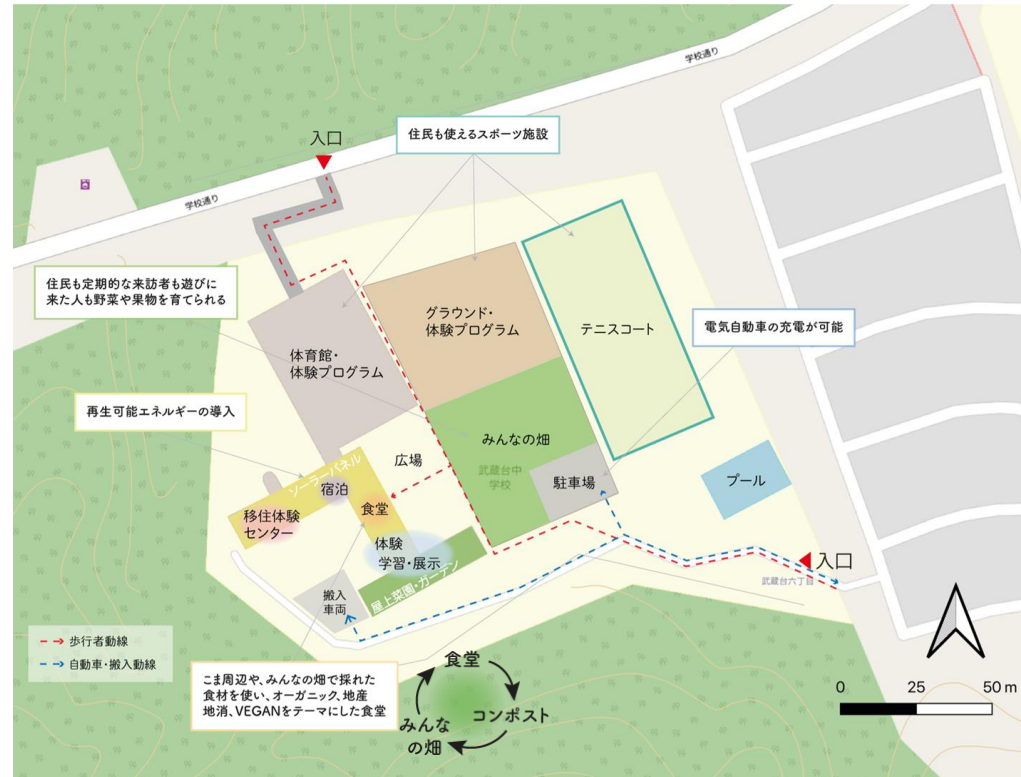
体験できること：

"自然を知る体感する" "環境を守る"

- ・森のガイドウォーク
- ・川の清掃・観察
- ・こまの自然、環境問題などについてのトークや展示
- ・畑、屋上菜園
- ・間伐材などのエコ工作・リサイクルクラフト
- ・発電体験実験



展望：「豊かな自然の中で環境について学べる場所といえ
ばこま武蔵台！」と言われるようになり、来訪者でまちが賑わう。
環境や自然に関係するベンチャーや芸術家なども将来的には街に呼
び込めるかもしれない。



余剰校舎活用 周辺の資源



- ・高麗郡に関する場所などがある
- ・高麗駅の北東に多く分布



- ・山を活かしたクライミングスポットが多い
- ・ホテルは飯能駅周辺に集中している

目次

01. 地域分析

02. 各分野の考察 余剰校舎活用・地域プロモーション・モビリティ・まとめ

地域プロモーション：方針

目的

住みたいと思う街を

- つくる
- 発信する

* 地域プロモーションの現状・課題

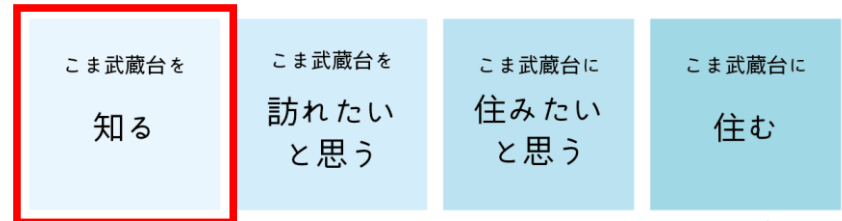
- つくる
産・学・住が連携し様々な取り組みがされている一方、活動の中心層に偏りがあり、特に若者や参加していない人へのアプローチが必要である。
- 発信する
こま武蔵台での暮らしの様子・情報・魅力は外部に向けてほとんど発信されていない。

* 内向きの目標(つくる)

・多様性を受け入れる土壌を作ること
住民の意見としてこま武蔵台に多様な新しい属性の人々が入居することに対して意見が二分している現状を改善する。

・地域活動の参加が難しい人へのアプローチ
まちに意見があるが意見を言えずにいる人が無理なく気軽に活動に携わる環境づくりをし、活動自体の認知度を向上する。

* 外向きの目標(発信する)



地域プロモーション：住民向け

目的

- ① まちづくりに参加する層を広げる・・・より多くの住民がまちづくり活動に参加できるように
- ② 同世代が集まれる場を作る・・・まずは「ヨコのつながり」から
- ③ 多様性を受け入れる土壌を作る・・・住民みんなで、住民みんなが楽しいと思える環境を作る

* 現状と課題

- ① 特定の世代に向けた地域イベントが多い
多世代が参加できるものは少ない
子育てする親向けのイベントが少ない
→タテ・ヨコ両方のつながりが出来にくい
- ② 世代間でまちに対する考え方が多様である
若者がこま武蔵台に新たに住むことに賛成する
住民と、反対する住民がいる
しかし、まちの存続のために多様性を押し進めたい
- ③ まちづくり活動が全ての住民に開かれていない
まちづくりに意欲的でない人には参加のハードル
が高い
→まちづくりに意欲的な人の意見のみが拾われる
- ④ まちづくり活動団体の認知度が低い
げんきネットの活動を知る住民は2-3割程度にとどまる
メンバー不足も相まって地域イベントの存続にも関わる

02. 各分野の考察

地域プロモーション：住民向け

目的

- ① まちづくりに参加する層を広げる
- ② 同世代が集まれる場を作る
- ③ 多様性を受け入れる土壌を作る

* プロモーションの具体的な内容

① こま武蔵台版・井戸端会議

テーマを定めず、住民が気軽に話せる場



画像出典：
<https://select.mamastar.jp/349993>

② ランチができるレストラン

ママ友ランチなどで使える場に



画像出典：
<https://r.gnavi.co.jp/eki/0002011/kods00338/lunch/>

③ こま武蔵台版・岡さんの家

地域住民が世代関係なく集まれる憩いの場



出典：岡さんのいえ TOMO <https://www.okasannoie.com/>

* 期待される住民間の交流フェーズ

Phase.1

少人数で
気軽に話す

Phase.2

ヨコのつながり
を増やす

Phase.3

少人数で
多世代交流

Phase.4

タテのつながり
を増やす

Phase.5

イベントの運営側
にまわる

① まちづくりに参加する層を広げる

② 同世代が集まれる場を作る

③ 多様性を受け入れる土壌を作る

地域プロモーション：新規向け

ターゲット層

A.自然好き/自然を身近に暮らしたい人

and

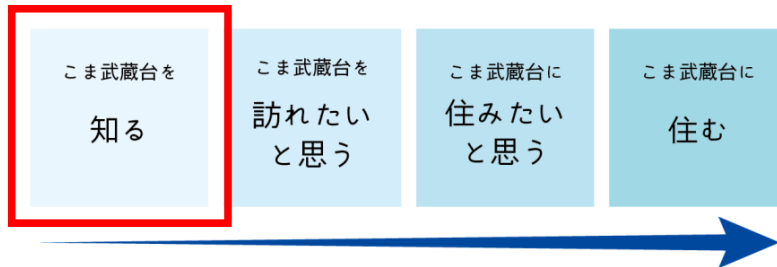
B.人付き合い/みんなで楽しむことを好む人

ex.) イベント、近所付き合い

年齢層：若者、中高年(移住者コミュニティによる縦の繋がり、子供離れによる時間増)

方針

まずは、住宅地としてのこま武蔵台を知ってもらう



提案：Webサイトデザイン

現状

- ・ネットにはいわゆる、物件情報しかない
 - ・げんきねっとのHPは主に活動に関する情報
- 周辺環境を含めた暮らしの全体像や街の雰囲気が見えづらい

戦略：見える化/想像しやすく

①多様な自然を多様な切り口で

→A

- ・日常、非日常
- ・人の属性
- ・コモン、プライベート

...

②ライフストーリー

→A,B

趣味や仕事、地域との関わりなどを個人にフォーカスしたライフストーリーにそって示し、暮らしを想像しやすくする

02. 各分野の考察

地域プロモーション：新規向け

こま暮らし



こま暮らしのすすめ

森や山に近く、自然をいっぱい感じながら、
都会までも1時間。
都会での暮らしにつかれた人、
人生の節目にある人、
こま武蔵台でのゆったりとした暮らし
「こま暮らし」
を考えてみませんか？



三

知る
住む
遊ぶ

こま武蔵台での生活



子どもがのびのび育つまち

高齢者一人暮らし、コロナでリモートワークが可能なことを機会に、東京都から移住。
庭のあるゆったりとした戸建でのスローな暮らしが、子どもたちののびのびとした成長につながっている。



家族の時間が增えるまち

◎●さん一家は、自然に囲まれたゆったりとした生活の出来栄を環境を求めてこま武蔵台に移住。
週末には家族で自然に囲まれた暮らしを、家族でのんびり時間を過ごしている。

遊ぶ

こま武蔵台の自然

こま武蔵台の自然はさまざま。
その自然の楽しみ方もさまざまです。
皆さんはこま武蔵台でどんな自然を楽しみたいですか？

〈自分好みのこまの自然を検索〉 ▼

知る
住む
遊ぶ



高麗川

近くの山中高麗川は、子どもたちの遊び場や大人釣りの場になります。

詳細>

子供で 高麗川 大人の休日
こま



飯能西武の森

近くの山中飯能西武は、よりトランピングスポットとしても知られています。

詳細>

子供で 高麗川 大人の休日
こま



公園

こま武蔵台には大小さまざまな公園があり、子どもたちの遊戯後の遊び場として使われています。

詳細>

子供で 高麗川 大人の休日
こま

※サイト案内内引用画像
<https://raraa.events/event/105357>
<https://1.0www.jp/h/18mendo/p02intro.html>
<https://allabout.co.jp/gm/gc/197833/>
<https://www.aflo.com/ja/contents/98656858>
<https://www.gettyimages.co.jp/>
<https://www.tujiyama-navi.jp/entries/CmdRN>
<https://rumakorensesaaa.net/article/191603010.html>
<https://www.bunkashinbun.co.jp/wp/2021/03/26/>
<https://mamati.jp/27119>
<https://senboku.jp/live/749/#content>
<https://tg-uchi.jp/topics/5314>
<https://www.kinchakuda.com/>
<https://blog.goo.ne.jp/mkm2511/e/a8226e1f54a31260d7960130db435f>
<https://blog.goo.ne.jp/karakaze/e/b6633305affd111564517d46b5e7b26>
https://tokusengai.com/_ct/17494473
<https://www.paraspo.tokyo/topics/26254>
<https://hyakkei.me/articles-820/>
<https://www.walkerplus.com/event/ar0419e402904/>
http://www.meiwa-dream.com/wp/wpcontent/themes/mw01/ms_garden/index.html
<https://www.tamai.co.jp/teiki-tasihin/detail/71>
<http://www.jeccclub.jp/ecorepart/detail.php?id=2552>

目次

01. 地域分析

02. 各分野の考察 余剰校舎活用・地域プロモーション・モビリティ・まとめ

02. 各分野の考察

— モビリティ：現状と課題

* 住民の主な移動手段

- 自動車 地区内のセンターへ行く際にも、傾斜があるため車を利用する人がいる。
- 公共交通 -電車：駅に近接するが、駅から住宅地へ向かうには**高低差70mの坂**を登る必要がある。
 -バス：中央の大通りを通っている**路線バスの減便**が予定されている。

* 住民の主な買い物先

- マミーマート(飯能)：主な買い物先。地区内から出発し家まで送り届けてくれる送迎バスがあり便利。
- 朝どれファーム(地区内)：撤退を防ぐために買い支えしようという住民もいるが、ここだけで**全て済ませることは難しい**。
 マルシェ等は好評。

* グリーンスローモビリティ実証実験(2021年3月21日～4月11日実施)

- 7人乗り、無償運行で実施
- 住民には概ね好評。

【実現に向けて】

- ✓ 路線バス・電車との乗り継ぎ
- ✓ フリー乗降or停留所
- ✓ 料金体系
- ✓ コミュニケーションツールとしての役割



時速20km未満で公道を走行可能な
電動車を活用した小さな移動サービス 34

02. 各分野の考察

モビリティ：方針

* 将来の望ましい移動のあり方

- 住民のニーズにあったモビリティの提供
- 自力での移動が困難になった高齢者にとって利用しやすい端末交通手段の確保
- 地区内外への移動手段・サービスの拡充

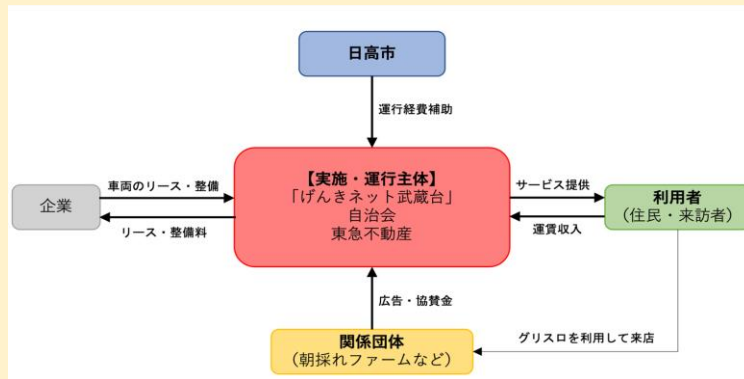
→ グリーンスローモビリティの導入を検討

所要時間

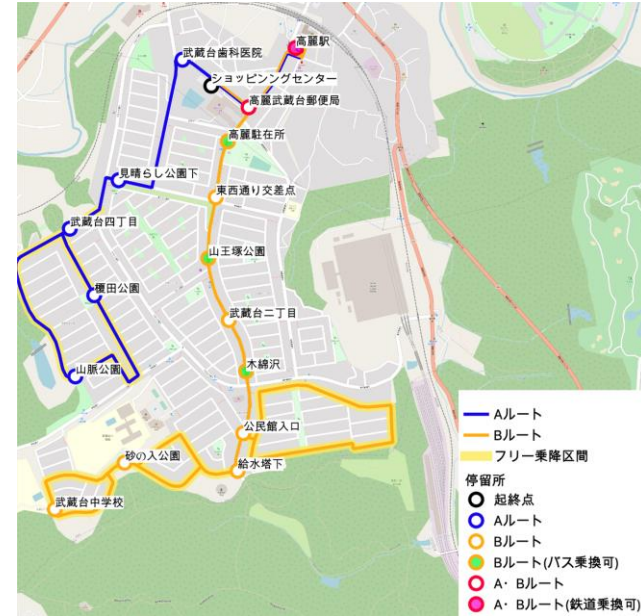
Aルート	約40分
Bルート	約50分

* 想定される事業スキーム

地域が主体で事業を運営し、行政や関係団体がそれを支援する形で運営することが継続的な運営のために望まれる



* ルート案



実証実験の際に住民と協議して決定されたうちの2ルートに、センターから駅までの経路を追加して選定。住宅地内は基本的にフリー乗降とし、なるべくラストワンマイルの交通手段としての活用を促す。

02. 各分野の考察

モビリティ：方針

* 運営上の課題

① 運賃収入など金銭面の検討

- ・ 都度払いの場合（100円/回）

→ 平均50人/日利用と仮定 → 182万円/年

（利用者数は実証実験時の1日平均利用者数から想定）

- ・ 定額制の場合（黄色が目標）

	200円/月	500円/月
450人(10%)	108万円/年	270万円/年
1350人(30%)	324万円/年	810万円/年
2250人(50%)	540万円/年	1350万円/年
3150人(70%)	756万円/年	1890万円/年

必要経費：約1700万円/年

人件費：ボランティアで募集(2人/日)

→ 220万円/年（日当3000円を想定）

車両代：リース(2ルートで2台)

35万円/台・月 → 840万円/年

諸経費

50万円/月 → 600万円/年

運賃収入の他に、広告収入・自治体などからの補助金によってカバーする必要あり

参考：実証実験時(2台×22日間の合計)

車両リース代：100万円

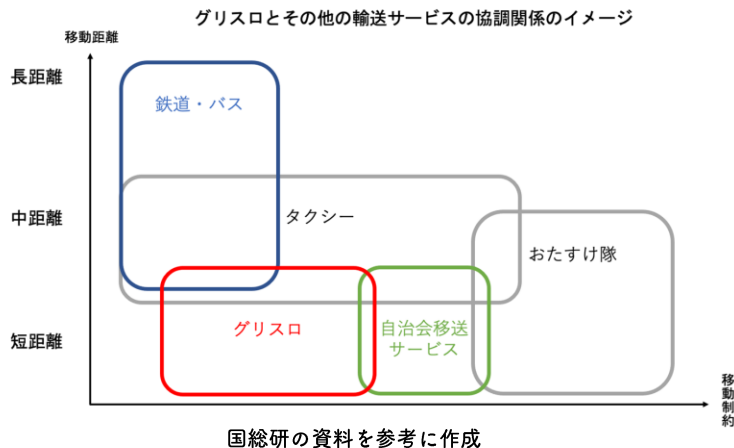
人件費：100万円

諸経費：50万円

モビリティ：方針

* 運営上の課題

② 既存のモビリティとの棲み分け



自治会で従来行われている移送サービスは、自宅から目的地へ直接向かうことができる一方で利用人数が限られるため、移送サービスをより移動が困難になった人が利用することし、グリスロと使い分ける。

③ 利用者の確保、インセンティブ

- 地区内の購買を促進する
- 若い世代でも利用するメリットやグリスロの良さを感じてもらおう
 - 保育園の近くを通るので、帰りに利用したり、小学生がグリスロを利用することで、親が駅まで送迎する負担がなくなる
 - ラッピングを施し、子供のイラストを採用することでまちを明るくする

例) ラッピングバス



朝採れファーム

画像出典：
<https://www.pref.sa-itama.lg.jp/greento>
<https://www.town.urism/shisetsu/302>
<https://www.town.urism/shisetsu/302>
<https://www.town.urism/shisetsu/302>

02. 各分野の考察

道路空間の活用

【現状】

- ・ 地区内のアクセス道路
- 通過交通はほとんどなく、アクティビティも見られないため、寂れた空間になってしまっている
- ・ タウンハウスの住棟間にある緑道
- 現状の所有権はタウンハウスの住民の共有になっている。右の写真のように、手入れが行き届いたところとそうでないところに差があり、当初住民のつながりを作る場ではあったが、管理の負担を感じる住民も多くなっている。所有の問題もあり、入りづらい環境である。



【提案：「みちあそび」活動で地域をつなぐ】

- ① 道路にチョークペイント
閑静な住宅地であることを生かし、道路に絵を描けるようなイベントを開催。
→ 絵を消す際に合わせて道路の清掃や草刈りを住民全体で行う。



- ② 流しそうめん
流しそうめんの器具を設置してイベントとして行う。
→ 周辺環境のチェックや草刈りなども合わせて行う。



画像出典：<https://yadokari.net/interview/43759/>

画像出典：
<http://www.town.marumori.miyagi.jp/machisen/kouya-mati/somen2020.html>

目次

01. 地域分析

02. 各分野の考察 余剰校舎活用・地域プロモーション・モビリティ・まとめ

まとめ



* 分野横断の必要性

余剰校舎×地域プロモーション

余剰校舎でのアクティビティが地域のブランド力強化に。
移住を考えている人が来るきっかけとしての余剰校舎活用

余剰校舎×モビリティ

余剰校舎での利益をグリソロの赤字補填に

地域プロモーション×モビリティ

グリソロが地域コミュニティを生む場に。
より暮らしやすい地域へ

さらに様々な課題や強みと連携して、
こま武蔵台という地域全体の魅力向上へ

ご静聴ありがとうございました

